

2023 年 9 月 22 日現在

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会作成

「神宮外苑の緑を未来へ手わたすために」
賛同メッセージ集

青木淳	建築家	このこと、都市審議会で、国立競技場のコンペ時に通ったときから反対してきました。もちろん、賛同いたします。
秋吉久美子	俳優	神宮外苑は季節を織りなす人生の一部です。
浅田次郎	作家	最近の執筆に「東京の緑」があります。（日本航空の機内誌『スカイワード』8月号掲載）
有田芳生	ジャーナリスト、 元・参議院議員	▶10年前に「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」が声をあげ、行動に立ち上がったときの共同代表11人がすべて女性だったことに、あー、男ももっとしっかりしなければ、と思ったものです。▶歴史的建造物を守るヨーロッパの古都をうらやみ、日本の文明破壊に反対します。
家中茂	鳥取大学地域学部特 任教授	神宮外苑は、実家の寺が外苑前にあることから、小さなときからよく訪れています。中山間地域の森も大切ですが、都市のなかの森も大切です。
上原公子	元・国立市長	真の豊かさとは、何なのでしょう。人は、経済のみでは生きていけません。安らぎを感じる空間。時空を飛び越える芸術。それらが暮らしの周りにあることで、人は幸せを感じることができるのです。 日本は、あまりに経済効果ばかり考えた国づくりをしてしまいました。文化を滅ぼす国に、未来はありません。 皆様の活動が世界に発信されることで、危うく潰されそうになった神宮外苑の森や、歴史を写す空間が、ようやくこれは国民の宝だと気付いた人たちが大勢います。 会の皆様方の、懸命のご努力に敬意を表しつつ、遅ればせながら、私たちも大きな声で、神宮外苑を残す判断が出るまで発信し続けます。
上山良子	ランドスケープアー キテクト	賛同しております。若い方々に実動は委ねております。土地を扱う開発を生業とする人々は基本の作法を守って頂きたい！ 土地の持つ資源を生かす！頑張ってください！

大石芳野	写真家	都会の真ん中だからこそ緑が大切です。今の時代に生きる人間として当り前のことでしょう。
大崎満	北海道大学名誉教授、土壌学	森林あるなしで、気温が10℃も違う。樹木（森林）のみが、地球を冷却出来ます。
太田和彦	作家	東京の誇る百年の緑景観を破壊する、これほどの愚挙はありません。共同代表の方々の力強い行動を、ありがたく思っています。あらゆる方面の支援をとりつけて、新聞に大きな意見広告を出す。街頭ビラ配りもして、大きく世論を盛り上げる、など大いにマスコミを使うのが肝要と思います。小池都知事がそれに応えざるを得ない状態を作りましょう。
大西暢夫	写真家、映画監督	テレビも見まして怒りを感じました。相変わらず逆行する行政の考え方は、ダム開発や原発促進にも通じるものがあります。 当然、賛同させていただきます。 現在、ダムももめ続けて半世紀を超えているところがあります。なぜとりあえずでよかったのですが、半世紀前に木を植えなかったのかと思っています。半世紀という無駄な時間を費やした行政の責任を感じます。 もしかすると自然環境が半世紀後に解決の道筋をつけてくれたかもしれません。 そういうことを思わず勧めてきた行政は、やはり政策ありきだという証だと思いました。 都内の伐採計画も100年の木を切るのであれば、100年後のビジョンが見えているのかということだと思います。 今の時代は、100年後では済まなくなっているはずです。 せめて100年後のビジョンという大胆そうに聞こえる政策が必要だと思っています。
大野秀敏	建築家、東京大学名誉教授	一番の問題は、「都市再生」という掛け声のもと、ニセの不動産需要を作り出していることだと思います。都市再生というなら、本来は繁栄している首都圏ではなく、地方都市が対象になるでしょう。そもそも、漁業でも農業でも、資源の量を見計らって生産調整して当該産業の持続性を考えるのに、不動産業や建設業は、需要が先細りであることを知りながら、限られた資源を先食いする、業界と政府の浅慮に驚くばかりです。
奥本大三郎	フランス文学者	樹を伐るのは早い。育つのは遅い。
落合恵子	作家、クレヨンハウス経営	「樹を殺すのは誰か！」

		目の前に立ちはだかる部厚く高い壁に わたしたちは、立ちすくむのか。 いいや、わたしたちは立ちすくまない、 後戻りはしない。 １００年生きた大きな木が、およそ１０００本。 １０００本の樹には、１０００のいのちと、１０００の物語が宿る。 １０００本の樹は、一体どれほどのいのちを支え、救ってきただろう。 ひとに、鳥に、小動物に、どれほどのやすらぎと憩い、深呼吸の時と 平和なまどろみを贈ってくれてきただろう。 木陰で開く本。開いたページに踊る光と緑色の影。 梢を渡る風が連れてくる、今を生きている確かな充実。 損なうことなく、それらを１００年後の世代に手渡すことを わたしたちは求め続ける。 それは、いまを生きるわたしたち、生存権そのものであり、 １００年後の世代へのわたしたちの責任。 どんな堅牢な壁も、倒せば道になる……、というあの言葉を 信じながら。
勝俣誠	明治学院大学名誉教授、アフリカ研究	「伐られても、伐られても」 ボクはイチョウだ。 年取ったので大イチョウだとニンゲンたちはボクを呼んでいる。 年を取ると、高く立っているのがつらくなる。 ニンゲンさまに悪さしないように、時々彼らは刈ってくれている。

		でも、根っこは生きてるさ。 そこからコドモたちが何本も何本も生まれるのだ。 ニンゲン・ドクターは、もう生存率が低いからと、ボクに死亡宣言を出した。 ボクは死にたくない。たとえ大木がミニボクになっても。 別のニンゲンが言った。あなたは、ミンナが通る道路にはみでています、と。 通行の邪魔です、と。 うーん。でも、それって、ニンゲンの都合ですよ。 ニンゲンのコトバを持たないボクの都合も聴いてほしい。 ボクはみ出ると根こそぎ命を絶たれるのですか。 伐られても、伐られても、世界がある限り生きたい。 ニンゲンたちと仲良く生き残りたい。
加藤千洋	元・朝日新聞社編集委員	港区生まれ育ちで、神宮の木々と一緒に生きてきましたので、皆さんの呼びかけに賛同します。 もう東京に新たな大開発・再開発はいりません。既存の町並みと暮らしの質の一層の充実を願います。
鎌田慧	評論家、ノンフィクションライター	いつときのカネのために森を永久に破壊する暴行は許されない。
北山恒	建築家	私も「2020 年東京オリンピックに旧国立競技場を改修して使う提案」をしていました。当時、旧国立競技場の解体反対のデモも主催しましたが、残念です。2002 年の都市再生特別措置法施行以降、政治と経済が癒着した巨大再開発が進行しています。都市破壊の時限爆弾であるタワーマンションや巨大再開発が、自動機械のように動いています。 無力感で呆然としますが、神宮外苑の巨大再開発はもちろん反対です。
黒川創	作家	景観はパブリックな「財産」の一つだと考えます。コンセンサスの形成ぬきに勝手に改変されるべきではありません。
見城美枝子	青森大学名誉教授	神宮の森を守るから育てるへ。応援します。
澤地久枝	憲法九条の会、ノンフィクション作家	昭和十年、四歳のとき当時の満州へゆくまで青山北町四丁目五十九番地は「わが家」でした。変えたくない風景があります。

椎名誠	作家	大切なことですね。心より応援しています。
陣内秀信	法政大学特任教授	東京の都心に見事に継承されてきた近代の歴史的遺産としての神宮外苑の大切な緑の空間。世界に向けての東京の誇りであり、都民、国民の貴重な財産です。世界の人々からも尊敬され、愛される東京を作り上げるためにも絶対に守らねばならない森です。
寺西俊一	日本環境会議理事長、一橋大学名誉教授	神宮外苑再開発計画は、理念的にも内容的にも、そして手続き的にも、あまりにも酷いものだと思います。直ちに中止・撤回することを求めます。
東郷和彦	静岡県立大学グローバル地域センター客員教授、元・オランダ大使	連日のニュースや、『月刊日本』の最新九月号などを見ながら胸がつぶれる思いでいました。小生の力不足で、関心は持ちつつもなにもできないでいます。もしも今から本件中止への賛同者に加えていただけるなら喜んで参加します。
浜野安弘	ライフスタイル・プロデューサー	並木・林を切りまくって、ガラスとコンクリートにするのは反対です。国立競技場は植木鉢化して大失敗してしまいました。
原武史	放送大学教授、政治学	再開発をするなら、明治神宮との関係をキッパリと断ち切ってからにして欲しいと思います
福川裕一	千葉大学名誉教授	神宮外苑の樹木伐採中止、再開発再考の声明へ、心より賛同します。
布野修司	日本大学特任教授、建築都市批評	日本の都市計画の歴史とその崩壊については他に譲るが、東京オリンピック 2020 の誘致（新国立競技場コンペをめぐる右往左往、汚職、神宮外苑の銀杏並木伐採問題）の背後に当初からあったのは、不動産業界の露骨で貪欲な開発意志である。神宮外苑は、その名の通り、明治天皇を「祀る」明治神宮の外苑として造営整備されたものである。もとは青山練兵場の跡地であり、その葬儀の際には葬場殿の儀が行われ、棺が置かれた場所であるが、明治天皇・昭憲皇太后の遺徳を後世に伝える諸施設を「公園」という位置づけで整備したものである。当初は、聖徳記念絵画館、葬場殿址記念物憲法記念館、陸上競技場の4施設のみの計画（1918年）であったが、大正末のスポーツ熱の高まりから、野球場、水泳場、相撲場

		を加えてスポーツ公園としての性格を強めるかたちで設計変更された。この時、明治神宮造営局の主任技師であった折下吉延（1881～1966）によって植樹されたのが銀杏並木である。 第二次世界大戦後、神宮外苑はGHQに接収されるが、1951年に移管されると、東京都は風致地区として、緑地を保全する措置をとった。山手線の内側、東京の中心に広大な敷地が残されてきたのはこの風致地区としての規定が大きい。また、文科省が管理する国立競技場などを除いて、宗教法人としての明治神宮がほぼ一括管理してきたことが大きい。しかし、明治神宮は宗教法人として神宮と内苑を管理するのが本来である。もともと、神宮と内苑は国費で賄われたが、外苑は奉賛会が全国からの寄付金を取りまとめる形で資金を捻出したものであり、東京市の200万円を筆頭に、全ての自治体が目標額寄付したものである。 東京オリンピックのために新国立競技場を同じ場所に建替えられなかったのか？ 東京オリンピックの招致は、不動産業、商社、日本スポーツ振興協会、そして東京都（石原慎太郎知事、猪瀬直樹知事）、安倍内閣全体の意志として、超高層ビル3棟を建設する容積率アップによる神宮外苑の再開発計画は前提であったのである。
松岡和子	翻訳家	樹齢100年の樹を伐採するのは大きな罪です。取り返しがつきません。
松場登美	（株）石見銀山生活文化研究所・相談役	開発という名の下に大切な自然や風景が破壊されていくことに反対します。
松原隆一郎	放送大学教授、東京大学名誉教授	元々はザハ案を廃棄にした段階で、その前に15mから80mまで緩和していた高さ規制を元にもどすべきだったと思います。戻さなかったのは高層ビルがその時点から計画されていたからでしょう。
松山巖	評論家	応援しますよ。
三浦展	評論家	今、古着がとても人気です。古木屋さんは売るとは言わず引き継ぐと言います。買う方もそう。古民家もそう言う。事業継承も盛ん。スクラップアンドビルドは発展ではない。引き継ぐことで未来を育てる時代ですよ。
宮本憲一	経済学者、大阪市立大学、滋賀大学名誉教授	いま戦後最大の転換期にきていますが、都市政策も転換期にきています。世界都市競争は終りをつげイタリアの大都市は開発を今後おこなわないという方針です。東京はこれ以上の大規模開発をやめ緑農地をふやしましょう。

室伏次郎	建築家、スタジオ・アルテック代表	貴声明に強く賛同いたします。この問題は計画当事者が国家的レベルでの「力を持った」一連の人たちであることで、一企業体の誤った計画のレベルを超えた大きな国家的政治問題であると思っています。このことを許せば、昨今の政権の独裁的な施策に終始する様を、なし崩しに看過してゆくことに繋がるものであり、国の在り方を問う重要な課題を突きつけられている問題だと考えます。 社会資産のうちでも取り分け大切な、歴史的環境を破壊することを意味するような経済利益優先の計画を進めようとする「恥知らず」計画です。一流であることで社会的責任自ずと担って然るべき日本を代表する一流大企業体がこのような挙に出て憚らない、またそれを自治体が援護するというあってはならない「酷い国」になってきているあからさまな証左だと思います。 貴声明が賛同者の規模拡大によって歴史的環境を大事に思う国民的運動体となってゆくことを願っています。
安富歩	東京大学東洋文化研究所教授	こんな馬鹿げた破壊工作を許してはなりません。
山折哲雄	宗教学者、評論家	お気持ちには押っ取り刀で駆けつけたいところです。
山本想太郎	建築家、山本想太郎設計アトリエ	都市的な建設計画は、民主主義の基盤ともいえる市民による議論の場とならなくてはならないと考えます。新国立競技場にはじまるこの地における計画プロセスは、いまだそのような場とはなりえていません。生活者による都市づくりという未来像のための一歩として、本計画の進め方の見直しを望みます。
氏名確認中		気候が激変しただでさえ、脆弱になっている樹木の生育環境を、より厳しいものにしてしまっでは枯死を招くと思います。そしてそのことが更に周辺の環境を悪くすると言う悪循環は目に見えています。それと引き換えに得られるものがショッピングモールとは。愚かなことです。